

科目名[英語名]							
海が運んだ中世・近世の鹿児島[Kagoshima Middle Age Culture from overseas]							
担当教員名[連絡先(TEL,研究室など)]							
日隈正守[099-285-7847]							
E-Mail	kuma@edu.kagoshima-u.ac.jp		受講対象	全			
課程区分	共通教育	学科/科目・分野等	教養 2 分野	開講期	後期	単位等	2
共同担当教員名							
教育目標のキーワード							
視野・判断力・探求能力/専門基礎能力							
学習目標(学生の達成 目標)							
1,中世・近世における日本と東アジア諸国との関係を理解する。 2,日本と東アジア諸国との交易が、日本、東アジア諸国に各々どのような影響を与えたかを考察する。 3,歴史に関する基本的な資・史料についての理解を深める。							
授業概要(目的・内容・方法)							
<p>我々にとって身近な地域である現鹿児島県域は、南島や琉球王国、中国や東南アジア諸国との間の交易拠点であった。日本国の「南玄関」としての役割を果たしてきた現鹿児島県域における交易の実態と展開過程を学ぶことによって、今後の日本のあるべき国際関係を考察させる。</p> <p>本講義では、南北朝期以降重要な交易拠点であった坊津、豊臣政権期以降南九州地域における交易拠点として中心的役割を果たした山川の史跡を見学するとともに、坊津を含めた中世南九州地域における日宋・日元・日明関係、山川を中心に戦国期以降の南九州地域における日琉・日明・日清関係や東南アジア諸国との関係について考察していく。</p>							
授業計画(15回に分けて、回数、日付、授業内容、授業外活動など)							
10/ 8 (木) 第1回 島津氏の山川直轄港化と国際貿易港構想。琉球渡海朱印状と島津氏の南島支配。 10/14 (水) 第2回 山川巡見。 10/14 (水) 第3回 山川巡見。 10/15 (木) 第4回 異国渡海朱印状と島津氏の東アジア貿易。 10/22 (木) 第5回 鎖国下の琉球口貿易。 10/29 (木) 第6回 昆布が結んだ鎖国日本と東アジア世界。 11/ 5 (木) 第7回 平安期における日宋関係。 11/12 (木) 第8回 薩摩半島部における日宋関係。 11/19 (木) 第9回 大隅半島部における日宋関係。 11/26 (木) 第10回 坊津巡見。 11/26 (木) 第11回 坊津巡見。 12/ 3 (木) 第12回 南九州地域を中心とした日元関係。 12/10 (木) 第13回 南九州地域を中心とした日明関係。 12/17 (木) 第14回 全体の総括と学期末レポート課題の提示。							
受講要件	特になし。但し巡見との関係で、受講人数は一般学生20人以内、社会人10人以内の計30人以内に制限する。						
評価基準および方法	講義に対して取り組む姿勢や学期末レポート等を総合的に評価する。						
教科書	特に使用しない。随時プリント資料を配布する。		参考書	原口泉他『(県史46)鹿児島県の歴史』(山川出版社、平成12年)。			
授業時間外対応(オフィスアワー、授業後、学習シートなど)	毎回講義終了後。		その他	受講希望者は、全員保険に加入していること。			